

グローバルリーダー講義 シラバス

【時間割情報】

科目名	グローバルリーダー講義
英科目名	Global Leader Lecture Series
担当教員	グローバルリーダー育成プログラム推進室特任教員
開講時期	2017 年 S1 ターム
単位数	2 単位
使用言語	英語

【授業の概要と目標 (Course Objectives/Overview)】

概要

「グローバルリーダー講義」は、GLPⅡ：GEfIL (Global Education for Innovation and Leadership) の必修科目の1つである「GEfIL 実践研究」と連続した授業科目であり、「GEfIL 実践研究」で想定されるいくつかのテーマ群を基にして組み立てられる。それぞれのテーマ群に関連して、世界の第一線で活躍する企業家、国際的専門家等を招き、地球規模で生じる「現実」の問題に対してどのように行動してきたのかなどについて実際の話を聞き、質疑を行う。これらを原則として英語で行う。受講対象は、GLPⅡ：GEfIL の履修生である。

この科目では、インタラクティブな方式を通じて、学生と講演者の間、及び学生同士の間における、問題意識、行動経験、問題解決策のためのアイデアや立案方法に関する「有意義な対話」を目的としている。その実現のため、また、講義に参加する大勢の学生が主体的、積極的に参加できるようにするために、講義自体を e-ラーニング・プラットフォーム*と組み合わせて行う。

受講者は、事前 に示される講義の概要やリーディング・アサインメントに基づき学習を行った上で、e-ラーニング・プラットフォームを活用して講義前及び講義中に質問や自分の意見などを投稿し、講義後にレポートを提出する。また、講演ごとに、学生チーム（4～6 人）が司会者や発表のコメンテーター、e-ラーニング・プラットフォームでの議論の管理・調整等の役割を果たす。

これらのプロセスを通じて、受講者は、地球規模で生じる問題の解決の過程に多面的、実践的な視点から積極的に携わることができる。また、学部後期課程の段階において、自身の進路を見据えつつ、各人が目指すべきグローバル人材像を確立するための一助とする。

* 専用のインタラクティブなウェブサイトを作成し、学生、講演者、GEfIL ティーチング・アシスタントやメンター教員が、持続的なディスカッションのために、意見、質問、講義レポートなどを投稿することができる多機能のメディア・プラットフォームである。SPOC (Small Private Online Course) や LMS (Learning Management System) などのプラットフォームを効果的に活用する。

目標

- ☆ 学際的、国際的な課題に関わる知識を習得している。
- ☆ グローバル問題の解決策立案方法を習得している。

- ☆ 学際的・国際的なチームで協調する能力、効果的なコミュニケーション能力を身につけている。
- ☆ 問題解決に際しての多面的、実践的な視座を身につけている。

【授業キーワード (Keywords)】

東京大学 GEFIL 実践研究、GLP II、国際機関、グローバル・アジェンダ、キャリア形成、サステナビリティ、グローバル・ヘルス、グローバル・ガバナンス、ピース・ビルディング、ダイバーシティ、グローバル・エコノミー&マネジメント 等

【授業計画 (Schedule)】

この科目は、オリエンテーション及び12回の講義・ディスカッションの計13回で構成する。

◆ オリエンテーション

本科目の目的、授業の進め方、eラーニング・プラットフォームの使い方などについて共有する。また、学生同士のディスカッションを通じて、地球規模で生じる問題をマッピングし、以降の講義及びディスカッションに繋げる。

◆ 講義及びディスカッション (第1～第12)

各回、30～45分の講演及び60～75分の質疑応答・議論の組み合わせとなる。具体的には、①世界の第一線で活躍する企業家、国際的専門家等による講義、②eラーニング・プラットフォームも活用しながら行う講演者との質疑応答・議論、さらに、学生同士のディスカッションなどの学習活動で構成する。なお、eラーニング・プラットフォームの特性を生かし、講義後も講演者や学生同士の対話を継続する。

講義は、担当教員の総括の下、サステナビリティ、グローバル・ヘルス、グローバル・ガバナンス、ピース・ビルディング、ダイバーシティ、グローバル・エコノミー&マネジメント等の地球規模で生じる問題をテーマとしながら、具体的な問いや切り口を設定して行う。講演者の一部については、その選定、交渉、企画運営等に学生も直接参画する。

第1・第2 主にサステナビリティの観点から2例程度の問いを取り上げる。

第3・第4 主にグローバル・ヘルスの観点から2例程度の問いを取り上げる。

第5・第6 主にグローバル・エコノミー&マネジメントの観点から2例程度の問いを取り上げる。

第7・第8 主にグローバル・ガバナンスの観点から2例程度の問いを取り上げる。

第9・第10 主にピース・ビルディングの観点から2例程度の問いを取り上げる。

第11・第12 主にダイバーシティの観点から2例程度の問いを取り上げる。

(2017年S1タームに開講するため、講演者については2016年度中に決定。また、講義の順番等は、講演者との調整のうえ決定。)

【授業の方法 (Teaching Methods)】

本授業は、一方向的な講義にとどまるものではなく、受講者には、eラーニング・プラットフォームを通じて、講義の概要やリーディング・アサインメントに基づく事前学習、質問準備やコメントの投稿を求める。また、講義中・後において、eラーニング・プラットフォームの多機能を生かし、学生と講演者の間、及び学生同士の間での質疑応答、アイディ

ア交換などの有意義な対話を奨励する。全ての GEFIL 履修生が一堂に会する機会であり、各学生の専門分野や関心を超えた形でディスカッションが行われることを期待している。

講演ごとに、GEFIL ティーチング・アシスタントやメンター教員のサポートを受けながら、学生チーム（4～6 人）が司会者、発表のコメンテーター、更に e-ラーニング・プラットフォーム上での議論の管理・調整等の役割を果たすことを求める。

なお、学生チームに与えられた役割のパフォーマンスについて、学生同士で評価を行う。

毎回の講義及びディスカッションについて、短いレポート（英語による 200 Words 以内）の作成を求める。講義後のレポートは、e-ラーニング・プラットフォームに投稿し、テーマに担当する学生チーム、GEFIL ティーチング・アシスタントやメンター教員がファシリテーターとなり、講義の内容について考察・議論する。さらに、各学生が作成した期末レポート案に対して、学生同士と教員のフィードバックを得て、講義課題から選択したテーマ全体を振り返り、期末レポート（英語による 3,000 Words 程度）の作成に繋げる。

【成績評価方法（Method of Evaluation）】

出席、各講義後に提出するレポート及び期末レポートに基づき総合的に判断する。

【教科書（Required Textbook）】

教科書は特に定めない。配付資料等によって授業を進める。

【参考書（Reference Books）】

講義ごとにリーディング・アサインメントを提示する。